

Wireless Microphone



ワイヤレスマイクの便利な機能

当社の 800MHz 帯ワイヤレスマイクには大変便利な機能があります。カタログに書かれている事以外にも「こんな事ができる！」をご紹介します。

更にアイデアを加えて頂ければ、大変便利な使い方も考えられますので、ご一読ください。

T/U/V モード (WM-8400、WM-8100A)

ユニベックス製 800MHz 帯ワイヤレスマイクを他社製受信機で受信すると、音質が悪くなるなど適合しないことがあります。WM-8400 と WM-8100A に限って、次の要領で設定すると改善できる場合があります。

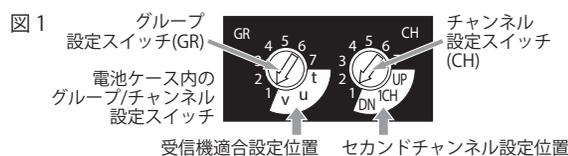


表 1

設定位置(GR)	設定位(CH)	適合受信機メーカー
t	1CH	TA社、他
u		ユニベックス、P社、TB社、他
v		V社、他

◎初期設定は「u」
注) 適合受信機メーカーは当社独自の調査によるものです。

※上図は取扱説明書から抜粋したものです。設定方法の詳細は取説をご覧ください。

ワイヤレスマイクは雑音の影響を受けにくくするためや、より多くのチャンネルを設定できるようにコンパンダ方式というものを採用しています。

コンパンダとは、コンプレッサ (Compressor : 圧縮回路) とエキスパンダ (Expander: 伸張回路) の造語で、マイクから入力されたオーディオ信号を圧縮したものを送信し、受信機側で伸張して元の信号レベルに還元するシステムです。この方式が各メーカーで少し異なり、受信して音声が出るが音質が変だという症状が発生することがあります。

この TUV 機能はユニベックス製品以外の受信機でもお使い頂けるように配慮された、親和性の高い機能です。

セカンドチャンネル機能 (WM-8400)

●本機は設定したグループ/チャンネルの他に、セカンド（副）チャンネルへワンタッチで切り換えることができます。

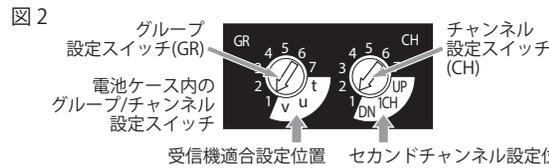


表 2 受信機適合設定位置 セカンドチャンネル設定位置

設定位置(GR)	設定位置(CH)	グループ/チャンネルを「B12」に設定した時の例
u	UP	「B12」で送信、電源スイッチを切にしてから0.5秒以内に入にするB13」で送信※
u	1CH	初期設定 「B12」のみで送信
u	DN	「B12」で送信、電源スイッチを切にしてから0.5秒以内に入にすると「B11」で送信※

※電源スイッチを0.5秒以上切にすると元の送信周波数「B12」にもどります。

「UP」に設定した場合は、電源スイッチを「入」の状態から「切」にして0.5秒以内に「入」にしますと設定したチャンネルよりひとつ上のチャンネル注1（例：B12 設定時は B13）に切り換わります。また「DN」に設定した場合は、ひとつ下のチャンネル注2（例：B12 設定時は B11）に切り換わります。再びもとの送信周波数に戻す場合は電源スイッチを0.5秒以上「切」にし、「入」にしてください。

注1
同じグループ内の次のチャンネルです。
最後尾の場合は先頭のチャンネルです。

「UP」に設定した場合
例)
「B11」設定時は「B12」
「B12」設定時は「B13」
「B13」設定時は「B14」
「B14」設定時は「B15」
「B15」設定時は「B16」
「B16」設定時は「B11」



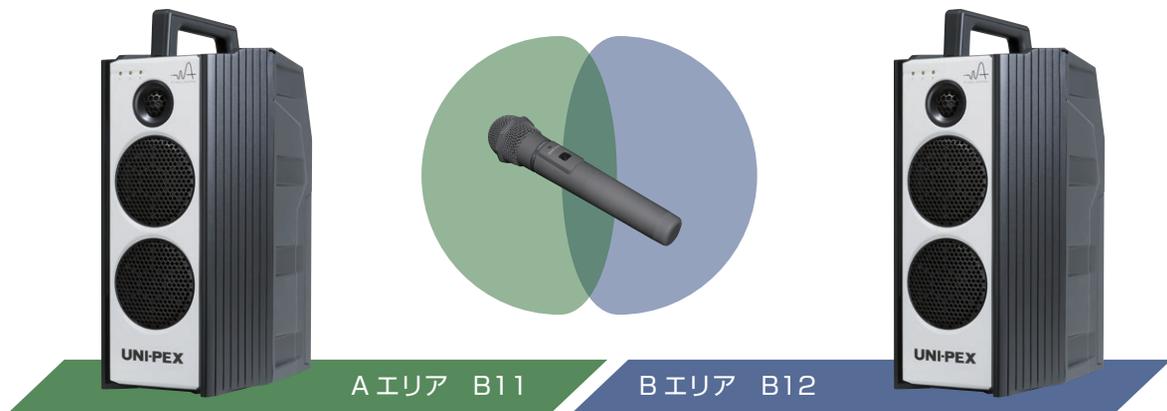
注2
同じグループ内の前のチャンネルです。
先頭の場合は最後尾のチャンネルです。

「DN」に設定した場合
例)
「B11」設定時は「B16」
「B12」設定時は「B11」
「B13」設定時は「B12」
「B14」設定時は「B13」
「B15」設定時は「B14」
「B16」設定時は「B15」



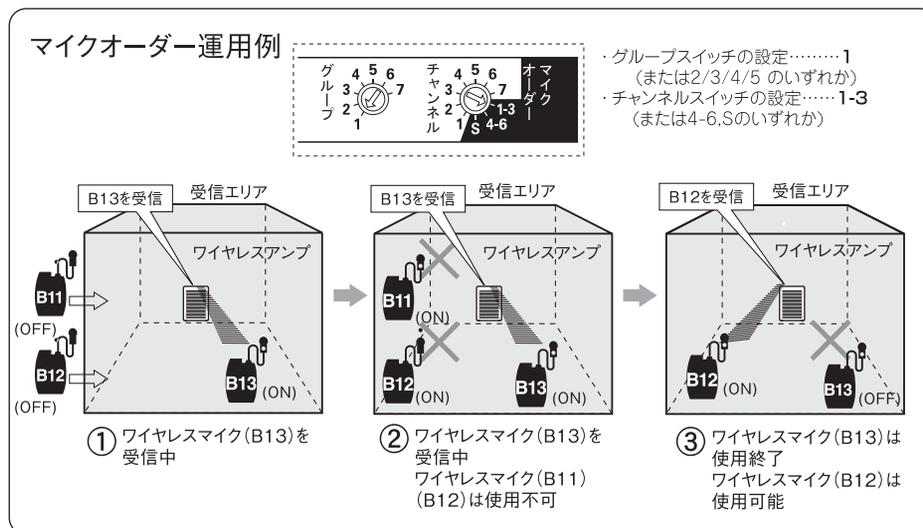
※上図は取扱説明書から抜粋したものです。設定方法の詳細は取説をご覧ください。

この機能は1本のワイヤレスマイクから2台の受信機(ワイヤレスアンプなど)へ切り替えて放送できるものです。2台へ同時に放送することはできませんが、Aエリア、Bエリアへ個別に放送したい時などに、2本のワイヤレスマイクを用意して持ち替える必要がありません。



「B11」を「UP」に設定した場合、「B11」と「B12」を1本のワイヤレスマイクで切り替えて放送できます。

マイクオーダー機能 (SU-350/DU-350/DU-850A)



※上図は取扱説明書から抜粋したものです。設定方法の詳細は取説をご覧ください。

この機能はセカンドチャンネル機能とは逆に、1台の受信機(ワイヤレスアンプなど)へ複数のワイヤレスマイクを切り替えて放送できるものです。ワイヤレスマイクは複数同時に放送することはできませんが、マイク本数分の受信機を用意する必要がなく、コストダウンができます。

また、最初の人発言、放送中に他の人からの放送を割り込み(ミキシング)させたくない場合に有効な機能です。少人数の会議、プレゼンやミーティングで先の発言者を優先、保持したい場合などに利用できます。